

逗子市内を「おでかけ」 しやすくするプロジェクト

～逗子市地域公共交通活性化協議会だより～

逗子市に迫る、公共交通の危機。今まさに、将来を見据えたより良い交通のあり方を考えなければなりません。

<公共交通の危機>

利用者減少、運転手不足。交通事業者の経営努力だけでは充実が困難。

高齢化が進み、移動に関するニーズも増大。渋滞緩和による利便性向上も必須。

令和6年度に国の地域交通法に基づき「逗子市地域公共交通活性化協議会」（会長：桐ヶ谷市長）を設立し、令和7年度は「地域公共交通の課題整理、施策検討」を行いました。令和8年度は、ビジョンや施策をまとめた

「地域公共交通計画」策定を目指します。

今年度は2回にわたり市民懇談会を開催しました。

市民懇談会を通じて、地域のニーズに合った、実現性の高い取組＝砂金を掘り出していきます。



第2回「市民懇談会」を開催しました

・日時：令和8年3月14日（土）

14:00～16:00

・会場：逗子市役所第3・4会議室

<趣旨>

市内で特に実現してほしい交通施策を考え、施策の中身を具体化するとともに、取組推進のために行動できる人を育てることを狙って開催します。

会の概要

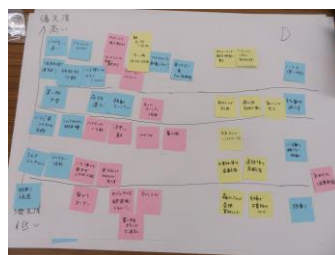
- ・ 前回の内容を振り返り、逗子市の課題を確認したのち、4つの班に分かれ、付箋を貼りながら、優先したい施策から具体的な方法や利用シーンなどを検討しました。
- ・ 会場は終始活気にあふれ、率直な課題や具体的な提案が次々に共有されました。参加者一人ひとりの「逗子をもっと移動しやすくしたい」という思いが、これからの交通を考える確かな手がかりになりました。



今回は、前回参加者や新規参加者を含め、計15名の方々にご参加いただきました。

挙げられた施策と具体的な方法・利用シーン（一例）

	施策	具体的な方法	利用シーン・対象
A 班	- 空白となっているエリアの補完策 - バス停までの移動手段	- 路線の充実 - 電動カートのシェア - デイサービスの車を活用 - 運転手は町内会の持ち回り	- 日中の市内移動 - アーデンヒルができて30周年→高齢者
B 班	- 地域拠点までの移動手段確保 - 外出促進策	- 高台住宅団地や谷戸等でワンボックスや小さなモビリティを運行 - 買物施設等との連携	- 買物通院等の日常移動 - アザリエから東逗子駅
C 班	バスの位置情報提供（バスの利用促進もセットで進める）	- 行きたいところまで公共交通でどう行けるかわかるようにする - 複数のバス情報が分かるように	- 普段車を使っている人にも興味を持ってもらう - スマホがない人にも使いやすい情報提供が必要
D 班	シニアカーの活用	バス停から家まで（上り坂）	- 買い物帰り的高齢者 - 通院後的高齢者



▲ 貼りだされた意見



▲ 各グループからの報告



▲ 有識者からの講評

※ワークショップで挙がったご意見の一例です。ほかにもたくさんの内容を挙げていただきました。

有識者（協議会委員）からのコメント

加藤博和さん

（名古屋大学大学院環境学研究科教授）

これまで数々の対話に参加してきましたが、過去最高に面白い議論でした。出たアイデアは多くが実現できそうです。次の鍵は運転手の確保・増やし方、狭い道路の使い方、駅やバスターミナルの乗換えやすさの改善です。料金や広告、補助金も活用し、良い案を深掘りして形にしていきましょう。

清水弘子さん

（かながわ福祉移動サービスネットワーク理事長）

活気ある議論がとても印象的でした。外出支援は、地域の「少しの手助け」で動ける人を支える取組です。続けるには思いつきではなく、話し合いを重ねて合意をつくることが不可欠です。公共交通で担うことと地域で動くことを整理し、皆で育てていきましょう。



次回懇談会の予定 令和8年夏季(8~9月頃)

※日程が近づきましたら、詳細をHP・広報に掲載します。

「地域で取り組んでいきたい施策・事業をどうすれば実現できるか」を話し合う予定です。これまで参加されていない方も奮ってご参加ください。

お問い合わせ

逗子市環境都市課

※その他、様々な機会を通じて市民・移動者の皆さんと意見交換し、「おでかけ」しやすい逗子市実現に結び付けてまいります。

☎ 046-873-1111（代表） ✉ kankyo@city.zushi.lg.jp